

一般質問

5人が立つ / その3

「リバーサイドひの」 の運営は



松原直人 議員

松原 自然とのふれあい、都市との交流を深めるための施設として「リバーサイドひの」の運営を町はどのように考えているか。

経営について専門家に相談したのか。

町長 施設の運営方法等は、今プロポーザル方式（提案型）の公募という方法をとっている。

指定管理者に応募いただく方、その方が専門家であり、運営等に精通されている方と理解している。

また、選考委員会等で運営にかかわる基本的な方針など十分に聴き取りをしながら進めなければならない。

指導・監督・指示は

松原 経営は指定管理者の努力が一番大事ですが、町の指導、監督、指示、間接的な管理も必要ではないかと思うがどうか。

町長 当然、町の施設であり、それを指定管理で行っていたら、だくという委託行為です。

もちろん要請があれば我々は相談に乗り、行政としてやるべきことがあるばやらないと認識している。

松原 募集要項では指定管理



交流施設（リバーサイドひの）は町の活性化に必要

業務に要する経費は原則として指定管理者が徴収する使用料等で賄うとあるが。

町長 町の基本的姿勢は、募集要項が基本姿勢です。

内容についてさらにどれだけ町がお金をつぎ込むかどうかというところは、応募者の中でどういう提案があったか、内容を精査しながら決定をしていくことです。

職員研修

松原 採用後十年以内の職員を継続的にアカデミー等、各種研修に参加させるべきであると思うがどう考えるのか。

職員の資質、能力、やる気をどのように高められるのか。

町長 若年職員の養成については、職員の資質の向上を図る上でも必須とするところで、専門性を有する職員、または採用間もない若年職員の育成等研修については、鳥取県自治研修所による研修や市町村アカデミーへ派遣するなど育成に努めたいと、考えているところです。

私はさらに能力を引き出すために昨年は係長以下の職員を五班に分け、少人数で日ごろから抱えている問題や課題について語り合える場を設けています。

職員の資質の向上なり能力を発揮させるためには、研修は必要不可欠であると考えます。

教育民生常任委員会 調査報告

十二月十七日、教育民生常任委員会委員と教育委員会委員との意見交換会を開きました。

生田教育委員長から、学校教育の基本的な考え方について話を聞きました。

その中で、黒坂小学校は、「三年生・四年生」、「五年生・六年生」が複式であるが、支障のない方法で、授業をしているとの、説明を受けて、一月二十九日、黒坂小学校の授業参観と学校給食試食会に参加しました。



1年生の図工

唐来校長は、「やさしさ」、「かしこさ」、「たくましさ」を育み、心豊かで生きる力を備えた児童の育成が、学校教育の目標である。